

塩竈市立病院事業調査審議会

日 時 令和5年3月7日(火) 18:30～
場 所 塩竈市立病院 3階 会議室

次 第

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 議 事 (1) 経営強化プラン策定に向けた検討

- ① 働き方改革について
- ② 新興感染症について
- ③ 施設整備の最適化について

(2) その他

4. そ の 他

5. 閉 会

塩竈市立病院事業調査審議会委員名簿

(順不同 敬称略)

【委員】

	委員名	職名等
1	本郷 道夫	東北大学名誉教授
2	赤石 隆	宮城県塩釜医師会会長
3	大井 嗣和	宮城県塩釜医師会副会長
4	佐藤 賢一	東北医科薬科大学病院病院長
5	遠藤 圭	宮城県保健福祉部医療政策課長
6	西條 尚男	宮城県仙台保険福祉事務所保健医療監 塩釜保健所所長
7	中嶋 満枝	市民代表
8	小野 憲幸	市民代表
9	福原 賢治	塩竈市立病院事業管理者兼院長

塩竈市立病院事業調査審議会

経営強化プラン策定に 向けた検討資料

塩竈市立病院

2023年3月7日

目 次

1. 働き方改革について		
(1) 医師・看護師の確保	・・・	1
(2) 働き方改革への対応	・・・	3
(3) 働き方改革における当院の方向性	・・・	5
2. 新興感染症について		
(1) 感染症拡大時の受入体制のイメージ	・・・	6
(2) 当院の方向性	・・・	6
3. 施設整備の最適化について		
(1) 施設整備	・・・	8
(2) デジタル化への対応	・・・	9
資料 塩竈市立病院利用者の居住地割合	・・・	11

1. 働き方改革について

(1) 医師・看護師の確保

①常勤職員数の状況

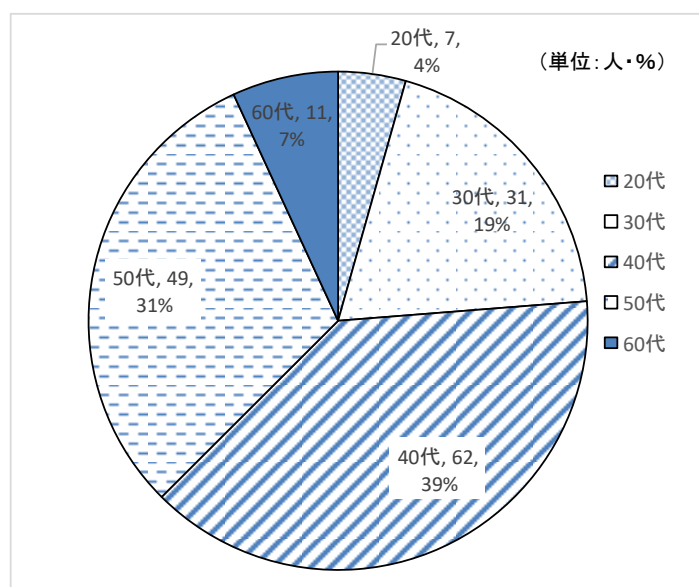
- ・2022年12月現在の医師数は15名で、内訳は内科7名、外科5名、整形外科1名、皮膚科1名、麻酔科1名です。年齢別では、60歳以上5名、50代6名、40歳以下4名で、60歳以上の医師は基本的に当直が免除されています。
- ・看護師については、2019年度と比較し2022年12月現在、4名減少しています。看護師、コメディカルともに、勤続3年以下の職員の退職が一定数生じており、若手職員の教育体制や働き続けられる環境づくりが課題です。
- ・職種別の平均年齢はリハビリスタッフを除き40代以上です。年代別の職員数では40代、50代の職員が全体の70%を占めています。

○職種別の職員数と平均年齢(再任用職員を含む)

(単位:人・歳)

	医師	看護師	薬剤師	技師	リハビリスタッフ	栄養士	事務等	合計
2019年度末	16	93	8	12	16	2	14	161
2020年度末	15	92	8	13	17	2	15	162
2021年度末	15	91	8	13	16	2	15	160
2022年12月現在	15	89	8	11	17	2	15	157
2022年12月平均年齢	53.6	47.9	42.1	43.7	37.2	52.0	46.5	-

○年代別の職員数(2021年度末の再任用職員を含む)



②医師派遣による病院間の連携状況(2022年1月～12月)

- ・非常勤の診療応援医師については、東北大学病院を中心に仙台市内や近隣病院の協力を受け、宿日直はもとより通常診療の強化を図っています。

○診療応援の非常勤医師の受入状況

(単位:人)

派遣元	診療科	医師数(常勤換算) 2022.12月			非常勤医師(2022.1～12月)	
		常勤	非常勤	合計	実人数	年間回数
東北大学病院	内科	7	0.58	7.58	28	265
	外科	5	0.63	5.63	8	141
	小児科	-	0.76	0.76	14	193
	眼科(手術)	-	0.04	0.04	1	24
	耳鼻科	-	0.07	0.07	8	46
	皮膚科	1	0.00	1.00	-	-
	放射線科	-	0.25	0.25	15	154
	日当直	-	0.76	0.76	40	201
	その他	-	0.08	0.08	8	56
	小計	13	3.17	16.17	122	1,080
東北医科薬科大学病院	内科	-	0.11	0.11	3	107
	整形外科	-	0.10	0.10	1	45
	小児科	-	0.18	0.18	1	49
	眼科	-	0.10	0.10	1	51
	耳鼻科	-	0.05	0.05	4	47
	リウマチ科	-	0.16	0.16	4	65
	その他	-	0.25	0.25	1	36
	小計	0	0.95	0.95	15	400
仙塩利府病院	泌尿器科	-	0.19	0.19	2	93
仙台厚生病院	呼吸器内科	-	0.15	0.15	4	72
仙台医療センター	日当直	-	0.08	0.08	2	26
その他	整形外科	1	0.00	1.00	-	-
	麻酔科	1	0.00	1.00	3	211
	その他	-	1.26	1.26	8	534
合計	15	5.80	20.80	156	2,416	

③臨床研修医の受け入れや若手医師の確保

- ・仙台市立病院や東北医科薬科大学病院より研修医を受け入れています。研修では訪問診療や離島診療なども取り入れ、他病院との差別化を図っています。

○研修医等の受け入れ状況

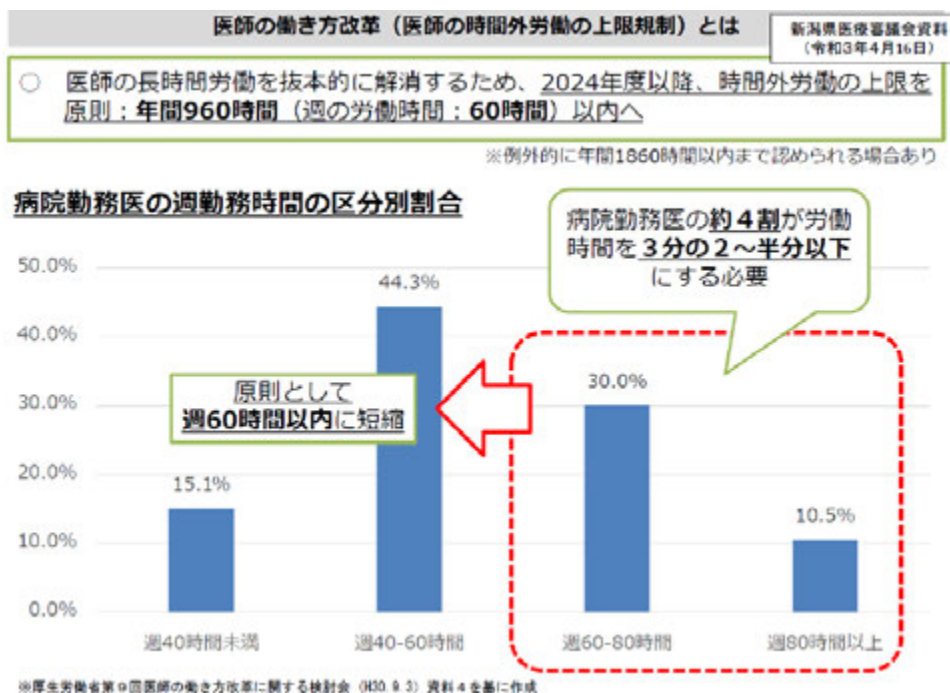
(単位:人)

	R2	R3	R4	備考
仙台市立病院	13	16	15	1週間単位の延べ人数
東北医科薬科大学病院		2	2	2カ月単位の延べ人数
計	13	18	17	

(2) 働き方改革への対応

①働き方改革の概要

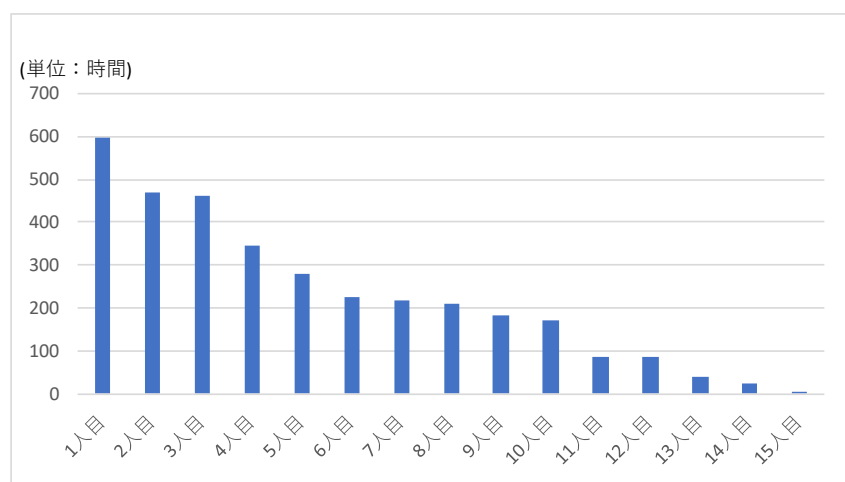
- ・2024年度以降、医師の時間外労働の上限を原則年間960時間(週60時間)以内にする規制が施行されます。
- ・上限を超える医療機関は休息等の就業上の措置を講じる必要があります。



②常勤医師の時間外勤務の状況

- ・常勤医師の令和4年の時間外勤務の状況は、時間外勤務が一番多い医師で約600時間のため、当院の常勤医師は全員年間960時間以下(週60時間以下・A水準)で推移しています。

○常勤医師(15名)の年間時間外勤務の実績(令和4年1月～12月)



③宿日直の状況

- ・宿直体制は、年間宿直日数のうち約45%を常勤医師が対応し、残りの約55%を診療応援の非常勤医師で対応しています。
- ・日直体制は、年間日直日数のうち約77%を常勤医師が対応し、残りの約23%を診療応援の非常勤医師で対応しています。

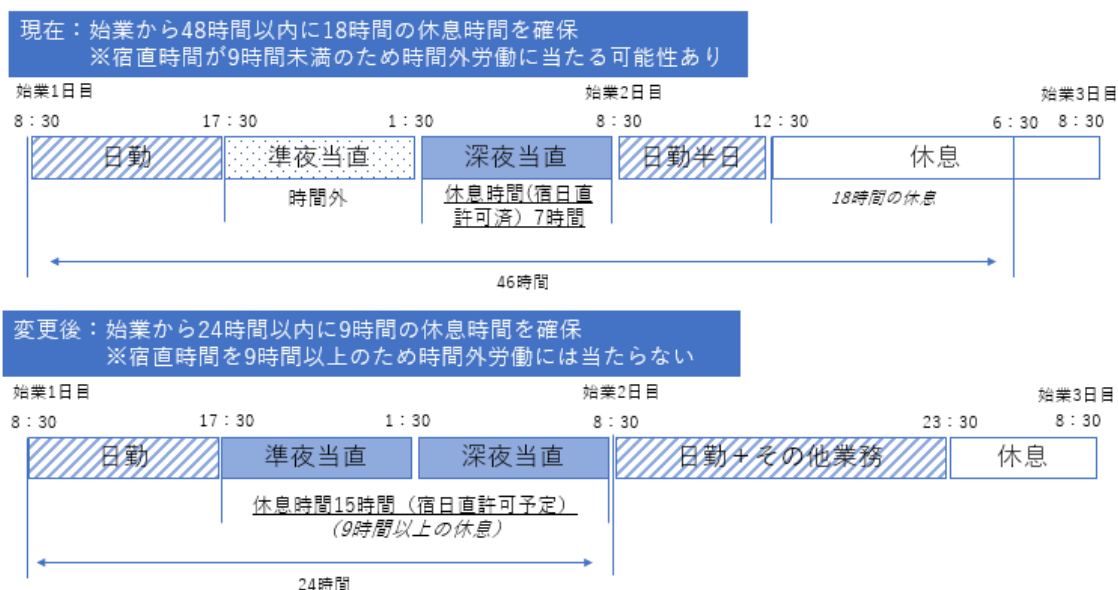
○宿日直の回数

		対応数		常勤医師一人当たり		
		年間回数	割合(%)	年間回数	月回数	月平均回数
宿直	常勤	166	45.5	14~25	1~3	1.6
	非常勤	199	54.5	-	-	-
小計		365	100.0			
日直	常勤	94	77.0	0~12	0~2	0.6
	非常勤	28	23.0	-	-	-
小計		122	100.0			

④当直時の休息時間とみなす時間帯の見直し

- ・当院は、労働基準監督署の許可を得て、当直における休息時間を7時間(1:30~8:30)とし、その休息時間帯は時間外勤務に該当しないと定めています。
- ・今の休息時間の場合、休息時間が9時間未満のため翌日は4時間以上勤務に従事できず、外来診療等の本来業務に影響が出る可能性があるため、宿日直時の休息時間を変更する予定です。

○当直勤務のイメージ



(3) 働き方改革における当院の方向性

①医師の確保

- ・東北大学病院や東北医科薬科大学病院を中心に、医師派遣の連携を深める
- ・東北医科薬科大学の地域枠の医師の確保をめざす
- ・若手医師が学会や研修への参加しやすい風土づくりや指導の充実

②看護師等の確保

- ・クリニカルラダーに基づき、新規採用看護師にはプリセプターナースが付き、丁寧な教育を行い離職防止に努める
- ・認定看護師等の育成支援の環境を整備する
- ・育児や介護等ライフイベントに応じた時短勤務や柔軟な勤務形態の確立
- ・年齢制限や准看護師枠の採用等募集要件の緩和を検討
- ・入院から在宅まで一貫した看護を行える当院ならではの魅力のPRを行う

③働き方改革への対応

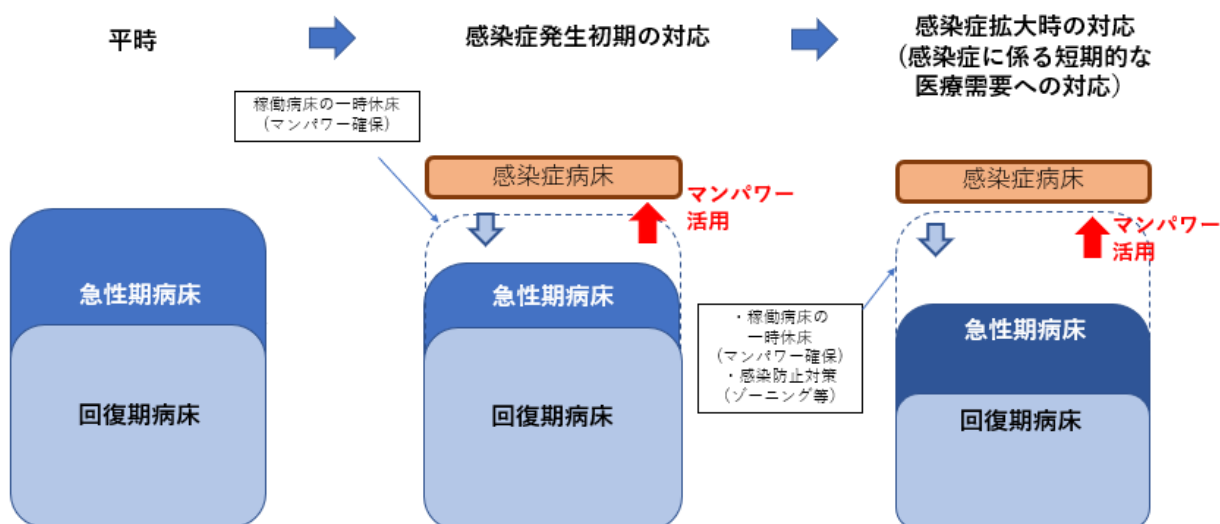
- ・常勤医師に関しては、A水準のため現状の勤務体制等を維持
- ・非常勤医師の派遣継続のために、宿日直許可の見直しを申請

2. 新興感染症について

(1) 感染症拡大時の受け入れ体制のイメージ

- ・感染症拡大時の受け入れ体制のイメージは以下のとおりです。
- ・当院で新型コロナ感染患者を受け入れた際は、稼働病床を一時的に休止し感染防止のゾーニングを行い、一部の病床を臨時的に新型コロナ病床に転用し対応しました。

○新型コロナウイルス感染症の感染拡大時の受入体制(イメージ)



(2) 当院の方向性

① 拡大時に転用しやすいスペースの確保

- ・感染症拡大時には、一般病棟を中心に感染症病床に転用します。
- ・地域包括ケア病棟については、可能な限り通常診療を継続するとともに、高次医療機関にて一定の治療を終えた感染症患者を受け入れます。病室または病棟単位でゾーニングを行い院内での2次感染予防に努めます。

② 連携と役割分担

- ・感染症患者の容体悪化時には、仙台圏域等の高次医療機関に転院を依頼します。
- ・高次医療機関にて一定の治療を終えたものの、すぐに自宅へ帰ることが困難な感染症患者の受け入れは地域包括ケア病棟を中心に行います。

③専門スタッフの育成

- ・令和4年度にて、感染管理認定看護師の育成のため、病院負担にて認定看護師養成講座に参加中です。資格取得後は院内での感染対策の強化や職員教育に当たる予定です。

④備蓄等

- ・感染用防護服等、必要な備蓄を行います。

⑤クラスター発生時の方針

新興感染症については、保健所と連携しながら基本的に新型コロナ感染症蔓延時の対応に準じます。また、感染対応マニュアル等を整備します。

a)入院

平時：通常診療を継続します。

初期：当院かかりつけ患者を中心に受入を行います。

感染拡大時：一般病棟を中心に感染症患者の受入を行います。高次医療機関で治療を終えた感染患者の自宅へ戻るための支援を行います。

b)外来

平時・感染拡大時：通常診療を継続します。

c)在宅医療

平時・初期：通常診療及びサービスを継続します。

感染拡大時：在宅療養中の患者及び家族の意思と容体に応じて個別に対応します。

⑥将来的な感染症病床の設置

- ・新病院建設の際には、感染症病床を設置し、感染症協力医療機関の登録を行います。

3. 施設整備の最適化について

(1) 施設整備

①施設改良等の整備計画

- ・病棟、外来棟共に築年数は40～60年経過しており、特に西病棟は老朽化が著しい状況です。
- ・現施設で安全に診療を継続するために必要な最低限の大規模改修は、以下のとおりです。
- ・大規模改修を行っても、動線が長く非合理的な施設の構造や新興感染症の対応等の課題解決をすることが困難であるため新病院建設の検討を進めています。
- ・なお、強化プランで求められる今後5年間における具体的な年次整備計画については、新病院建設の方向性を踏まえながら、収支見込みの作成の中で改めてお示しします。

○最低限の施設修繕、改良、医療機器等の整備見込み

分類	NO	項目	概算費用(千)
施設修繕、改良整備	1	空調設備更新	21億円
	2	給排水設備・重油タンク等更新	
	3	外壁及び屋上防水改修	
	4	内装及び外構改修	
	5	電気設備及び厨房改修	
医療機器整備	1	MRI・マンモグラフィ等更新	
	2	検体検査機器更新	
	3	電子カルテシステム更新	
	4	酸素吸引等更新	

②新病院建設の検討の経緯

新病院建設に向けて以下の検討を行いました。

○市立病院の新病院建設の検討の実績

令和元年度 「市立病院建設基礎調査事業」を実施

→新病院の基本コンセプトが示される。病床機能の転換（療養病棟廃止・回復期病床増床）

→地域を支える病院として役割を明確化するとともに、追加繰入に頼らない経営に改善

令和2年度 市の重点課題検討部会「市立病院あり方検討部会」の実施

→若手職員を中心に市立病院のあり方を検討

令和3年度 「塩竈市立病院病棟改築可能性調査」の実施

県による「地域医療構想推進事業」の実施

→現在の医療機能と健全経営の実績を評価されるとともに、新築移転と比較し現地建替えは建築コストが高いことが示された

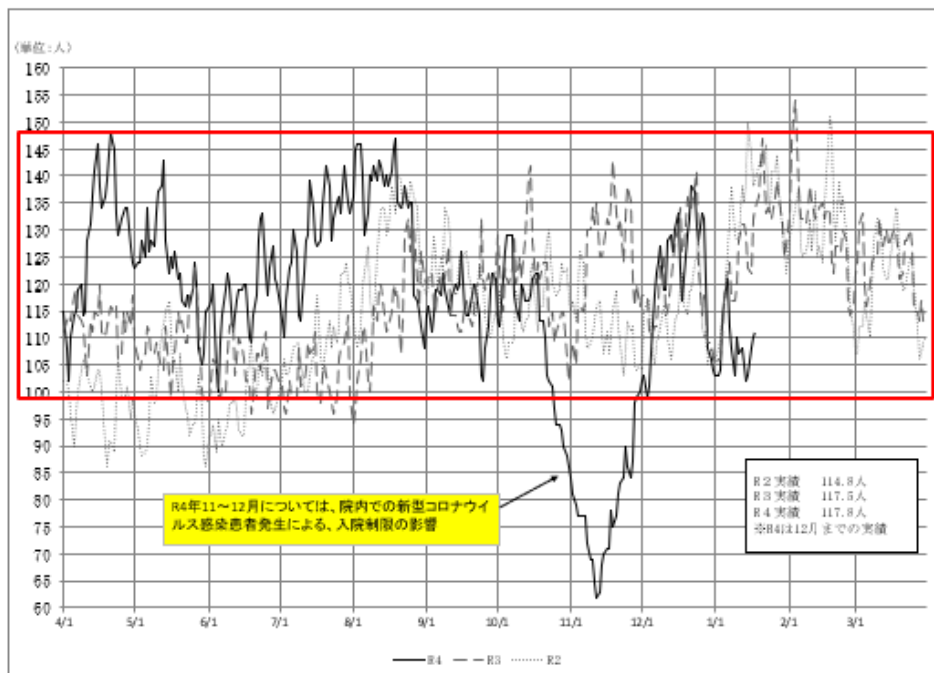
令和4年度 市の「重点課題検討委員会」の実施

→市役所・ごみ処理場・市立病院の整備の優先順位の決定と市役所及び市立病院の移転候補地選定のための仕様を検討

③適正な病床規模

- ・経営強化プランのガイドラインにおいて、施設整備に当たっては、病床規模の明確化が求められているとともに、収支のバランスをみて適正な病床規模の見極めが必要です
- ・過去3年間の稼働状況をみると、新型コロナウイルス感染症の院内感染による入院制限（10月～12月）の期間を除けば、約100人～約145人で推移しているとともに、1日あたりの平均入院患者数は約120人です。

○稼働病床数の推移



(2) デジタル化への対応

①当院のデジタル化の現状と今後の予定

2014年度 放射線・PACSシステム導入によるフィルムレス化

2016年度 医療介護連携システム MMWIN への参画(データバックアップ)

2021年度 全オーダー種の電子化と電子カルテシステム導入による紙伝票の廃止
訪問診療等への電子カルテシステム導入

2022年度 マイナンバーカードによるオンライン資格認証システム導入

2024年度(予定) 電子処方箋の導入

※将来的には、離島等を含むオンライン診療の導入を検討

②サイバー攻撃等への防御策

a) 電子カルテ及び関連装置のセキュリティ対策

- 1) 電子カルテ、部門システム及び付属装置一元管理による脆弱性対策の実施
- 2) パスワードの複雑化や使い回しの禁止、不要アカウントの削除等リスク低減措置の実施
- 3) インシデントの早期検知及び発生時の適切な対処・回復

b) ウイルス対策

- ・サーバー及び端末全てにセキュリティソフトを導入し、定義ファイルが常時最新状態にする

c) 情報漏洩対策

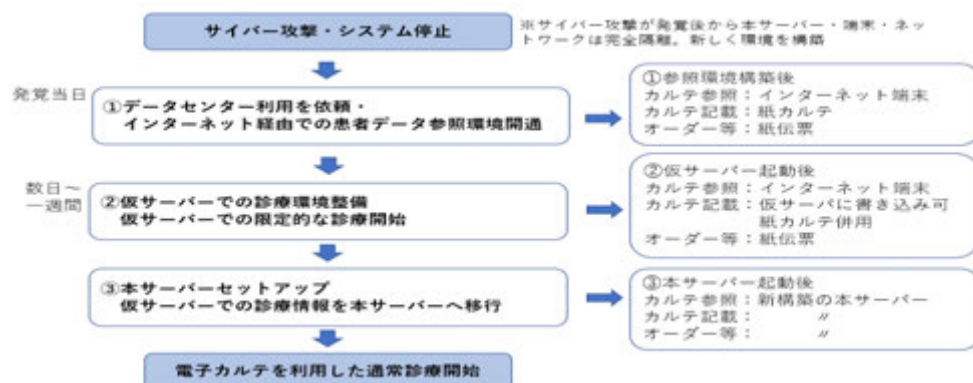
- ・情報不正持出の禁止(USBメモリ使用の原則禁止)

③サイバー攻撃等からの復旧策

a) データセンターによるバックアップ

- ・大規模災害やランサムウェア等のウイルス感染時に迅速に電子カルテの復旧ができるよう電子カルテメーカーのデータセンターでバックアップを実施

b) 復旧までのイメージ



c) サイバー攻撃金銭要求への対応

- ・金銭要求に応じて不正に抜き取られたデータの公開や販売を止められるとは限らず、一度暗号化されたデータが必ず復元される保証はない点と、厚労省の見解から、金銭要求に応じることが犯罪組織への支援と同義の為要求には応じない。

d) 職員教育

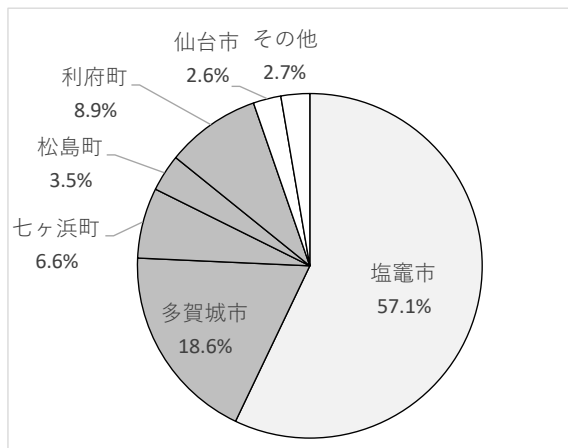
- ・電子カルテのセキュリティ対策や、サイバー攻撃等に対する認識を深めてもらうため、定期的に職員研修を実施する。

塩竈市立病院利用者の居住地割合

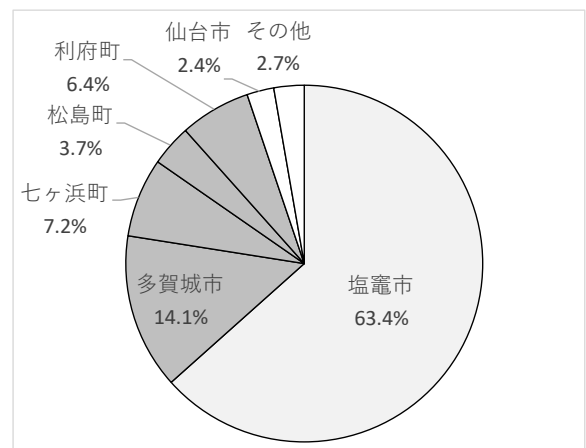
(1) 入院・外来等の患者(令和4年1月～12月)

入院・外来・発熱患者とも塩竈市民が約 6 割で、多賀城市・七ヶ浜町・松島町・利府町(以下「近隣市町」という。)からの患者が 3 割から 4 割となっています。時間外救急患者については、塩竈市民が約 5 割で、近隣市町からの患者が 4 割となっています。

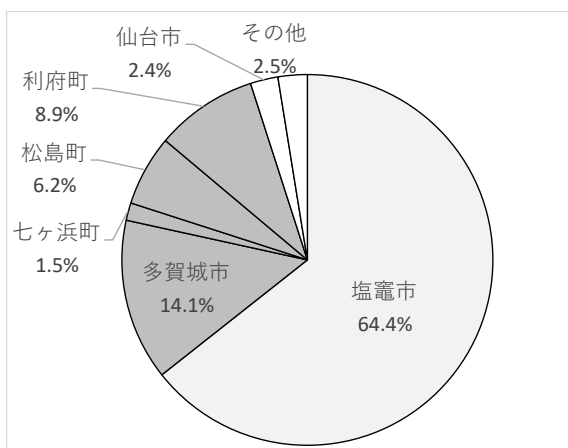
①入院患者の居住地割合



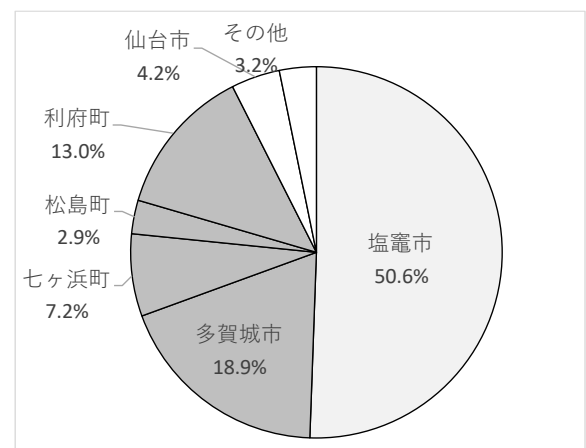
②外来患者の居住地割合



③発熱患者の居住地割合



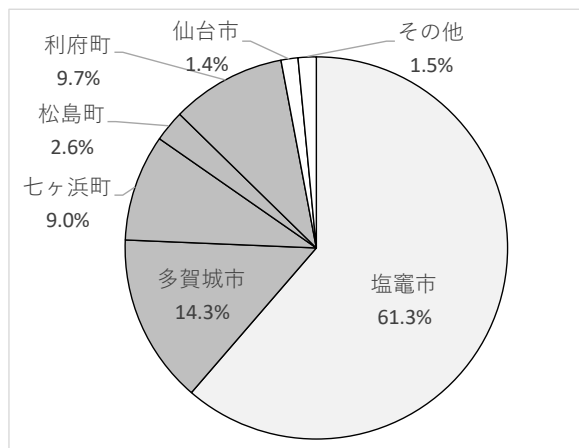
④時間外救急患者の居住地割合



(2) 在宅医療・予防接種等の利用者(令和4年1月～12月)

在宅医療の利用者は、塩竈市民が約6割で、近隣市町の利用者は約4割となっています。予防接種等の利用者は、塩竈市民の利用者は9割で、近隣市町からの利用者は約1割です。

①在宅医療利用者の居住地割合



②予防接種等利用者の居住地割合

